

## 創立130周年記念式典を挙行！

静岡の地で130年！

継承される伝統  
ニーズに応える改革

多くの来賓を得て  
盛大に挙行！

改めて確認する  
建学の精神  
先人たちの想い  
学院の使命

学校法人静岡英和学院は11月25日、新館5F講堂「楓ホール」にて、創立130周年記念式典を挙行いたしました。静岡英和学院は、1887（明治20）年11月、当時教育の機会に恵まれていなかった女子に対し、静岡の地において高い知性と教養を与えることを目的にした「静岡女学校」をルーツとしています。この女学校は、静岡メソジスト教会の日本人牧師平岩愼保の提唱に当時の静岡県令関口隆吉らの地元有力者が賛同支援し、カナダ・メソジスト婦人宣教会の積極的参加を得て創立されました。現在は、大学、短期大学部、中学校・高等学校を擁し、学生・生徒総数は約1,400人を数えます。

石井理事長による開式の言葉では、継承されてきた伝統を大切にしながらも時代のニーズに応える改革を今後も進めていく決意が語られました。

式典には、吉林章仁静岡県副知事、田辺信宏静岡市長（代理）、木苗直秀静岡県教育長を始め、各界から多くの来賓の参加を得ることができました。本学からも大短合わせて174名の学生が列席しました。

式典に引き続いて、前理事長・院長・学長の武藤元昭氏により「キリスト教学校の覚悟」と題して、キリスト教信者の教職員が減少してい



### 式典の様子

く中、ミッションを守る難しさと教職員の覚悟について講演がなされました。

式後は、ティーパーティーが催され、参加者は130周年の歴史に思いを馳せ、和やかな時を過ごしました。ティーパーティー内では人間社会学科2年のシー・リン・ニーさんによる二胡の演奏が披露されました。（企画部 高橋）



決意を語る石井理事長

### 目次：

学長言	2
宗教 ボランティアセンター	3
学科ニュース	4
研究室探訪	6
留学生センター 学務課	7
キャリア支援課 後援会	8

# 人生100年時代

学長 柴田 敏



柴田敏  
(しばたさとし)  
学長

変化の激しい社会に「対応する」ということ。

今、世界は人生100年時代を迎えているといわれます。たとえば日本で2007年に生まれた子供の半数は、107歳まで生きるそうです。同様のことが、世界中で起こるといいます。医療の進歩、公衆衛生の充実、栄養状況の改善などなどの要因によって、世界中のどこでも、人類の平均寿命は延びていきます。(参考文献参照)

一方で、これからの時代は、かつてない激変の時代だともいわれます。「第4次産業革命」とか、「society5.0」といった言葉を知っている人もいるでしょう。AIやIoT技術の急速な進歩によって、社会のありようが急激に変わっていくというのです。

たとえば、自動車の自動運転が実用化されれば、バスやタクシーから運転士がいなくなります。そうすると、タクシーとレンタカーの区別が失われます。個人が自家用車を持つのではなく、レンタカーを使ったり、1台の車を複数の人がシェアしたりするようになるでしょう。そうなれば高齢になっても、移動手段には困らないようになることが期待できます。駐車場も今ほどいらなくなります。

また、流通を支えるトラックは、休憩なしで目的地まで走るようになります。高速道路ではみな整然と並んで走るの、まるで貨物列車のようになるでしょう。道路信号のシステムと、道路交通情報、そして個々の自動車がリンクするようになれば、交通事故や渋滞は激減するはずですが、救急車や消防車などの緊急車両は、スムーズに現場に向かうことができるでしょう。

このようなことが、今年の内に実現するのは難しいと思います。しかし、もう2、3年たったら実現しているかもしれません。とにかく、この先の変化のスピードは、とんでもなく速いといわれているのです。

そのように変化の激しい社会を、100年以上生きるのです。その間も20年、30年とたてば、また激変した社会が現れるでしょう。さらに、気候変動や人口減少という変化が加わります。そういった相次ぐ変化に対応しながら、生きていくようになります。

その場合の「対応する」とは、どういうことでしょうか。その時代の中で場所を得て、働くということです。働くためには、新しい技術や知識を適切に使えなければなりません。20歳前後の頃に身に付けた知識や技術だけでは、足りなくなるのです。学びなおして、さらに新しい知識や技術を身に付けるようになります。

今、学生の皆さんはそのような人生を送るための基礎、土台を作っているのです。卒業を前にした皆さんは、その土台作り区切りを迎えました。でも、卒業していく皆さんを含めて、これからも学びは続きます。

将来、皆さんが学びなおしを決意した時に、またこの静岡英和学院大学、静岡英和学院大学短期大学部に戻ってきてくださることを願います。もちろん本学も、その時代に対応し、皆さんの期待に応える内容になっていなければなりません。

そして、どんなに大きな変化の中にあっても、皆さん一人一人への神さまの愛は変わることがありません。そのことを信じ、永い人生を一步一步、歩んでいきましょう。

参考文献：リンダ・グラットン他『LIFE SHIFT』東洋経済新報社、2016



## 宗教委員会

### 静岡英和学院の130周年と 静岡英和学院大学の2017年！

なんと言っても2017年は学院の創立130周年という節目の年でした。130年という長い歳月を静岡の地にキリスト教を縦軸に教育活動を横軸にした学校としてしっかりと建てたことを全教職員・学生が改めて確認し、これまでの先達に、またこれまで見守ってくださった神様に感謝する1年でした。

前期のキリスト教に触れ合う機会は、1年生のリトリートと毎週の礼拝、キリスト教必修の授業、そして、7月の楓コンサートでした。後期はまず9月18日に大学開学15年、短大開学51年を祝う1551企画（第一部はAOIにて音楽の集い、第二部はグランディエールにてお茶会）を教職員が一丸となつて行うことができました。9回目となるクリスマスカードコンテストには約115枚の応募があり、最優秀賞には現コミ2年の芦沢結衣さんが選ばれました。10月には「クリスマス盛り上げ隊員」を募り、彼らを中心にアドベント（待降節）前後に校内の飾り付け等が完成しました。11月20日には、学院にとって大事な創立130周年を祝って創立記念礼拝が行われ、今回は元静岡英和女学院中学校・高等学校教諭で現在学院の史料を整理しておられる松下直規先生に、学院の創立から現在に至るまでの貴重なお話をさせていただきました。12月の最初の一週間

は楓クリスマスコンサートが行われ、集まった募金はユニセフに贈りました。12月20日には、照明を落とした新館講堂においてクリスマス礼拝が行われました。礼拝は聖歌隊による賛美の声と共に始まり、点火係による点火も厳かに行われ、学生による聖書朗読の後、伊勢田奈緒牧師による「イエス」その名は「主は救い」という意味であり、クリスマスは世界中の人々が神様の愛に包まれて平安に暮らせる日が来ることを願う礼拝の日でもあるという内容の説教がありました。礼拝後、第六代目SEDA劇団による「ME AND MY GIRL」（伊勢田奈緒脚本・演出）が上演されました。今回の出演者は四年連続出演の寺西穂華さんを初め、4年生が中心となりました。今年のクリスマス礼拝も楓ホール中が共に愛を分かち合う場となり、良き礼拝を行うことができました。同日、午後6時からW303にてキャンドルサービスとクリスマス会がありました。部屋の飾り付けや食事の用意を学生が手伝ってくれました。集まった学生、教職員がキャンドルの灯りの下、一年間を振り返りつつ、神聖な雰囲気の中でキャンドルサービスが行われ、その後ケーキやごちそうを食べつつ和気藹々と恵み豊かな良き時を共に過ごすことができました。創立130周年の2017年も変わらず私たちを見守って下さっている神様の愛に包まれて、様々なキリスト教の行事を通じ、学生、教職員が共に喜びあう一年になったと思います。感謝。（文責：伊勢田）



クリスマスカードコンテスト最優秀賞（現コミ2年：芦沢結衣さん）

創立130周年  
共に喜びあい神様に感謝する一年

## ボランティアセンターだより

### 英和ECOウォーク2017 第3弾を開催しました！

12月15日（金）ボランティアセンター学生スタッフ主催による今年度3回目の企画「英和ECOウォーク2017」が実施されました。この活動は、東静岡駅から大学までの通学路を綺麗にしようと2カ月に1回程度実施してきました。今回の参加者は学生スタッフ、一般の英和生、教職員合わせて17名でした。冬休み前の最後の活動として、授業の空き時間に東静岡駅からのグループと、池田山団地周辺の

グループとに別れ、清掃活動を行いました。

当日は天気に恵まれ、参加者の会話が花が咲き、交流を深めながら頑張りました！今回は自転車のブレーキレバーや長靴がゴミとして捨てられていて笑いの種となりました。活動中に地域の方々から「ありがとうございます！」と声をかけられ嬉しく思いました。学生スタッフをはじめとして、ECOウォークに参加して下さった方々、本当にありがとうございました！そしてお疲れ様でした！また5月頃に行えたらいいですね。

（ボランティアセンター 橋本）



ECOウォークの様子

## 人間社会学科

人間社会学科では、学生の教育・研究のレベルのさらなる向上を目指しつつ、地域への貢献も重視した活動を推し進めています。2017年度は、人間社会学科に属する教員3名の課題が「しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業」で採択されたほか、教員1名の課題が「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」のゼミ学生地域貢献推進事業で採択され、それぞれの教員と学生が地域の方々と一緒になって取り組みを進めています。

心理メジャーでは、新たな国家資格として誕生する「公認心理師」の資格取得に対応した体制を整え、来年度より新しいカリキュラムがスタートする予定です。

経済経営メジャーでは、B-nest静岡市産学交流センターの支援事業で外部の講師を招いた「ビジネス実践講座」を開催するなど、一層の教育効果を高めるためのプログラムを実施しています。

観光地域デザインメジャーでは、「I Love

しずおか協議会」および静岡大学と提携して行っている静岡市中心市街地の活性化を目指した取り組みが順調に推移しており、活動の様子は10月13日付の静岡新聞や日本経済新聞（静岡版）に掲載されるなど、社会的にも注目が高まる機会をいただいています。

英語文化メジャーでは、オーストラリア、フィリピンをはじめとする留学プログラムや、英語学習スペース「NEST」の活動がさらなる充実をみせています。

日本語文化メジャーでは、9月9日・10日に「西行学会」の本学での開催を実現させ、学会の研究活動に貢献すると同時に、研究拠点としての本学の存在感をアピールすることが出来ました。

人間社会学科一同、引き続き教育・研究・地域貢献に加えて学生募集にも力を入れて参ります。なにとぞよろしくお願い申し上げます。（人間 毛利）



西行学会のポスター

実習に生かされる「あちよぼ」による保育の実践！



あちよぼの参加者

## コミュニティ福祉学科

今年で「子育てばばママ広場みんなであちよぼ」が始まって丸7年になりました。様々な本学の地域への取り組みが認知されつつあります。

「あちよぼ」は、学生にとって親子とふれあう保育実践の機会となり、のちに保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園などの実習に活かされていきます。実習先では、保育実践の前後、つまり、計画や準備、片付けの部分にとっても高い評価を得ています。日々の保育には、計画・準備が重要になるといわれていますが、学生には計画、準備、実践、振り返りまでの大切さが十分理解できていきます。

「あちよぼ」には学生の願いがいたるところに入れてあります。例えば、季節の壁面飾りについてです。1階ラウンジには、天井からつるされた可愛いハートの形のモビールが飾られているのをご存知でしょうか。ピンク色や赤色のハートが風に揺られて室内を華や

かにしています。本学の入学式や卒業式にもそのまま飾られていました。学生たちも見ていてうれしかったようです。拝見いただくと学生の優しい気持ちが伝わってきます。

また、本年度の少子化社会対策白書（内閣府）のp140のコラムには、本学学生の少子化対策の取り組みが紹介されました。「あちよぼ」に来てくれた親子とのふれあいや大学での理論が彼らの活躍に結び付いた結果だと思えます。

これからも「あちよぼ」を通して、学生たちの子育て実践力を強化していきます。ぜひ、本学の学生たちの力を静岡県にアピールし広げていきたいと思っています。（コミ福祉 永田）



あちよぼのスタッフ



## 現代コミュニケーション学科

### 新ユニットーイングリッシュ・

#### コミュニケーション・ユニット

現代コミュニケーション学科はユニット制となっており、現在6つのユニット（ビジネス・マネジメント、ツーリズム、メディカル・クラーク、ホテル・ブライダル、ライフ・デザイン、ファッション・アンド・ビューティ）で構成されています。かつてはファッション・アンド・ビューティ・ユニットが人気でしたが、東北の大震災以降、医療事務の資格が取れるメディカル・クラーク・ユニットが人気となり、就職先も個人病院などの事務職に就く卒業生が多くなりました。このように現代コミュニケーション学科は時代の変化に応じて、ユニットを再編していますが、2018年度より新たにイングリッシュ・コミュニケーション・ユニットが加わりま

す。

このユニットでは、基礎的な英語力だけでなく、ビジネスでも通用する英語が学べるのが特徴です。例えば「観光英語」「ビジネス・イングリッシュ」などの科目では、外国人を案内するとき、あるいは電話で交渉するときなど、日常会話だけではなく、さまざまなビジネスシーンでも英語で会話ができるよう徹底的に訓練していきます。また、英検やTOEICなどの検定試験に備える科目では、授業の中で検定試験のための勉強をし、積極的に検定試験にチャレンジしてもらいます。

これから東京オリンピックなどを迎え、日本にはますます多くの外国人観光客が増えていくでしょう。さまざまな国の人たちとコミュニケーションをとるために、まずは英語を学ぶことから始めてみませんか。



イングリッシュ・コミュニケーション  
授業風景

## 食物学科

皆様、こんにちは。食物学科では、学外講師による学びを積極的に講義や実習に取り入れ、学生が自ら学び今後に応用できる仕組み創りをしています。

調理学実習Ⅳ（食品加工実習）では、11月に、森永乳業株式会社（KRAFT）の方をお招きし、チーズ講習会を開催しました。チーズの歴史・製造方法・種類や栄養などを学んだ後、本格的なナチュラルチーズの試食と乳製品をふんだんに使った調理実習を行いました。12月には、澄んだ空気の中、中庭にて静岡市認定農業者協会会員である、青木嘉孝氏による餅つきを実施しました。薪割りをし、餅米をセイロで蒸しあげた後、護国神社の古材でできた臼（すでに80年使用）にて臼、クチナシ、ヨモギ、玄米の4種類の餅を学生がつきました。静岡県中部地区の農家に伝わる年末年始の過ごし方やしめ縄についても学びました。年末には、正月飾りを玄関に飾ろうと考えた学生もいたようです。餅つきは、すっかり英和の風物詩となりました。年明けには、レストラン「アンテラス」のシェフ杉本道彦氏をお招きし、プロのレシピによる洋菓

子作りにチャレンジします。2年生にとっては、最後の実習になります。

1年生は、食品学各論の授業で、しずまえ鮮魚の各部会（由比・蒲原、清水、用宗）の方を講師にお迎えし、静岡市と協働で「しずまえ鮮魚メニューブラッシュアップ」に取り組んでいます。授業の様子が12月7日の静岡新聞にも掲載されました。

静岡大学農学部と実施している単位互換科目では、本年度も静大農場に行き、ミカンの摘果、お茶の収穫、手もみやイネの収穫・調製などの体験をさせていただきました。一方で、静岡大学農学部の学生（年間約50名）も本学の調理実習室において、静大農場で収穫した柑橘やトマトの加工などを英和生と一緒に取り組んでいます。このように、お互いの得意分野を活かした単位互換制度が活発に行なわれており、他大学にはない特色の一つになっています。

（食物 彭）



### 学外講師による 学び

#### 自ら学び応用する



学生が製作したマーマレード

## 研究室探訪



児玉和人（こだまかずと）  
准教授 就職委員長  
所属：現代コミュニケーション学科  
専攻分野：経済政策（中小企業論、中小企業政策、地域産業論）  
研究テーマ：「後発国の工業化における中小企業の技術形成」「戦後復興期自動車部品産業の形成」

就職に直結するゼミの活動

私の専攻は経済学の3分野（理論、歴史、政策）の中で、最も現実に近い分野である経済政策、特に日本企業の98%を占める中小企業を対象として、日本経済で重要な位置を占める自動車産業を構成する自動車部品形成過程、現状に関して調査研究をしています。自動車は、乗用車であれば3万8千点での部品で構成される商品であり、その国の総合的な工業力を示す代表的な産業の一つで、経済的に大規模な波及効果があります。関連する産業分野（自動車、化学、鉄鋼、小売業等）を含めれば、日本就業人口5分の1が自動車産業と関連して働いています。その中でも中小企業は高い割合を占めることとなります。現在、戦後復興期（昭和21～30年）の自動車部品産業の研究に力点を置いて研究しています。この時期、自動車産業は主に商業用のトラック2万台程度の生産でした。ところが、昭和40年には生産台数800万台に達します。なぜ、日本の自動車産業は短期間で大量生産体制を整備することが出来たのか。なぞを説く鍵は、復興期に自動車メーカーが中小企業に生産、販売に協力を求めたこと、日本政府が先進国からの技術導入と普及に努めたことにあると考えています。今後、以上の研究成果をもとにして、発展途上に日本経済、自動車産業の経験を伝えることが出来た

らと考えています。

地域貢献について

2017年度の地域貢献活動は、2月沼津工業団地協同組合で各組員企業に対するヒアリング調査を行いました。10月「本年ヒアリング調査の概要」「大学・短大求人の特徴と今後の動向」と二つのテーマで講演しています。同月焼津信用金庫と短期大学部は産学連携協定を締結しておりますので、ツインメッセで開催された「2017年しきんきんビジネスフェア」に学生25名を引率して参加しています。

ゼミ学生から（現コミ2年 黒田友梨）

児玉ゼミでは、プレゼミとして希望者に対象として、毎年を実施する組員企業12社で構成される沼津工業団地を訪問して、経営者を対象としてヒアリング調査に参加しました。前期に就職対策の業界研究を兼ねて、日本の各産業分野の動向、特徴を学習します。後期では、すぐに社会にすぐに役に立つビジネス書を数冊を輪読して、各ゼミの学生が発表しています。このような成果は、就職活動の成果が表れています。私はパナソニックエコソリューションズ（旧松下電工）の面接対策で大いに役に立ち、内定を勝ち取ることが出来ました。



## 財務課

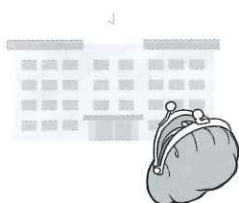
～2018(平成30)年度 学納金の納付書発送及び納入期限について～

	前 期 ※1	後 期 ※1
納付書発送時期	2018(平成30)年4月上旬	2018(平成30)年9月上旬
納入期限 ※2	2018(平成30)年4月25日(水)	2018(平成30)年10月2日(火)

※1 学納金は、前期と後期の2期に分けて納入いただきます。

但し、新入生（1年生・3年次編入生）の前期分は、入学手続き時に納入済みです。

※2 家庭の事情等により、期限内に学納金の納入が困難な場合は、分割・延納が可能（別途手数料あり）ですので、学務課（Tel:264-8873）までご相談ください。





## 留学生センターだより

2017年度も、本学の留学生は勉学に励むと共に、国際交流活動等にも積極的に参加しています。今回はそのうちの、二つの活動について紹介いたします。

一つは、静岡県の国際交流活動等に貢献する「ふじのくに留学生親善大使」としての活動です。2017年度は本学から7名の留学生が選ばれましたが、県内の大学では最も多い人数です。親善大使に任命された7名は、県知事の委嘱を受け、講師として母国の文化や歴史などについて説明をしたり、母国の伝統的な踊りを実演したりと、幅広く活躍しています。

もう一つは、留学生日本語弁論大会でのミャ・ブン・ピューさん（ミャンマー出身、人間社会学科4年）の活躍です。ピューさん



全国大会でスピーチをするピューさん

は、「世界平和のためにできること」との題で正面から自分の思いを論じ、県の大会で最優秀賞を受賞しました。さらに、東海ブロックの選考でも代表として選ばれ、全国大会で堂々とスピーチをしました。発表の態度も立派で、その主張は会場の多くの方々に伝わったのではないかと思います。

留学生の活躍は、日本人の学生にも大きな刺激となっていると考えています。（留学生センター 職員）



ふじのくに留学生親善大使委嘱式の留学生たち

## 学務課

### サークル活動の現状報告

サークル活動は基準部員数を擁し継続的な活動実績が評価された団体を本学の認定サークルとし、また新規に共通の趣味等で集まった学生による申請団体を同好会としています。今年度の体育系のサークルは11団体、同好会1団体。文化系のサークルは15団体、同好会1団体です。登録学生数は体育系約250名、文化系約260名で、大学・短大部全体で約54%の学生登録がありますが重複登録者もあるため実質的には50%弱の加入率になっています。

今年度は大学創立15周年、短大部創立51周年ですが、創立当時から継続して活動するサークル（バスケット、硬式テニス、軽音楽等）がある反面、その時代の流行、気分を反映した新設団体の場合は1年間で活動休止、廃部となる傾向が見られます。

体育系サークルで学外にも認知される常勝の団体は残念ながらありませんが、各サークルには本学入学以前にその競技の経験者が少なからず加入していますので、市民大会等に参加し優れた成績を収めたことを報告してくれることがあります。去る12月3日に開催さ

れた第24回静岡県私立短期大学体育大会（主催：静岡県私立短期大学協会）の女子フットサルの部に出場した本学短大生編成チーム（体育系サークル「ViVi」から選手選抜）は他校を圧勝し見事優勝いたしました。1994年から毎年開催されている大会で、本学はこれまでに2009年、2012年の硬式テニスの部での優勝経験はありましたが他競技では全くありませんでしたので、今回の優勝は参加選手と共に本学としても大変嬉しいニュースです。来年度の大会まで優勝カップは学務課内のカウンターに“鎮座”しておりますので学務課に立ち寄った折にはぜひご覧ください。（成績は下記に記載）

学生の皆さんの実力、経験を発揮できる機会の提供、支援方法等について学務課で検討しているところです。また、大会等への参加時には多くの学生、教職員が共に応援できたらとも考えています。

静岡県私立短期大学体育大会 フットサル女子の部 優勝：静岡英和（対常葉A:8-0、対常葉B:14-0、対浜松学院:12-0）

\*上記の他バレーボール女子の部にも参加（第3位）（学務課 松澤）

女子フットサル  
静岡県で優勝！



女子フットサルメンバー

## キャリア支援課

### 「ハローワーク」と連携した 就職支援！



#### ジョブサポーターが丁寧に

「ハローワーク」って、仕事を辞めた人が行くところと思っていませんか？「新卒応援ハローワーク」は、大学・短大の学生の皆さんや、既卒者の就職を支援する専門のハローワークです。キャリア支援課では、平成24（2012）年度より、「静岡新卒応援ハローワーク」と連携し、学生の就職支援の専門職「ジョブサポーター」を派遣していただき、「出張ハローワーク相談会」を開催しています。平成29（2017）年度で6年目になります。今年度は、4月5日～1月24日までの期間、37回開催し利用学生数は、89名。利用し

た多くの学生がすでに内定を獲得しています！「出張ハローワーク相談会」では3つの支援メニューから選択して一人一時間の個別支援を受けることができます！

- ①「キャリアインサイト」システムを使用した職業適性診断と診断結果のフィードバック
- ②就職活動の個別相談（応募書類の添削やマナー、面接指導や就職活動の進め方など）
- ③求人情報の提供・紹介

学内開催の相談会だけでなく、県内3か所にある「浜松新卒応援ハローワーク」（浜松市中区板屋町）「静岡新卒応援ハローワーク」（静岡市駿河区南町）「ハローワーク沼津新卒応援コーナー」（沼津市市場町）を利用する学生も多く、採用内定に向けた支援を受けています。

平成30（2018）年度も、4月から翌年1月まで62回（毎週水曜日、第1・3・5木曜日、第2・4火曜日の指定日）学内にて「出張ハローワーク相談会」を開催します。多くの学生の皆さんの利用をお待ちしています。

（キャリア支援課 松本）

## 後援会だより

### 三英和大学包括連携協定 締結記念講演会を開催！

11月11日に本学講堂にて東洋英和女学院大学学長の池田明史氏を講師に迎えて『海外に出る』ということ>と題して講演会を開催いたしました。グローバル化によって日本国内での生活、人々の意識も変革をせざるを得ない状況にあることを、講演を聴講された方々は実感されたのではないかと思います。引き続き行われたトークセッションでは、池田学長、山梨英和大学の難波副学長、本学の柴田学長の他、山梨英和大学と本学

の学生4名からキリスト教主義大学としてのボランティア活動、国際貢献、地域交流についての実績報告等がなされました。（学務課 松澤）



池田明史 東洋英和女学院大学学長



SHIZUOKA  
EIWA GAKUIN  
UNIVERSITY



SHIZUOKA  
EIWA GAKUIN UNIVERSITY  
JUNIOR COLLEGE

静岡英和学院大学  
静岡英和学院大学短期大学部

〒422-8545  
静岡市駿河区池田1769  
TEL054(261)9201  
FAX054(263)4763

企画・編集

学報委員会